

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203295		
法人名	有限会社 パルティール		
事業所名	グループホーム オリーブガーデン (すみれ)		
所在地	岡山県倉敷市亀山564-3		
自己評価作成日	平成 30 年 3 月 30 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3370203295-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3370203295-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 4 月 11 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症高齢者が人格を尊重され、抑制がなく自由で安心して生活できるよう配慮工夫しています。</p> <p>○居住環境：建物全体が広くて明るく開放的で見守りがしやすく自由な雰囲気にあふれている。各個室はゆったりとして広く、個室ごとにトイレ・洗面・クローゼットを備えていて、プライバシーを尊重している。</p> <p>○職員：常に明るくチームワークが良い。介護力も質が高く、優秀でマナーが良い。</p> <p>○地域との関係：地域の協力がとてもよく、地域の各行事に参加したりオリーブの行事に来てくださったりとても友好的である。</p> <p>○食事：献立・調理など全職員が入居者の健康・嗜好・食事形態をふまえた上で工夫を凝らし、家庭的で美味しい食事を提供している。</p> <p>○ご家族：絶えず連絡をとり、良い関係を構築し理解を得ている。</p> <p>○医療：主治医の協力が大変良く医療が適切に対応が迅速である。ご家族への説明、他の医療機関への紹介など丁寧に対応して下さい。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域行事(もちつき、夏祭り、盆踊り、カラオケ大会など)に参加したり、保育園や小・中学校の行事に出向いたり、高校生の職場体験やボランティアを受け入れたりするなど、地域との繋がりが深く、密な関係が築けている。玄関とユニット間のドアは常に開放され、ホールの窓からは自由にテラスや中庭に出ることができ、利用者は拘束の無い自由な生活を送っている。また、面会時間に制限は無く、好きな時間に訪れることができるので、家族・友人との交流が深まっている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員ともに理念を理解し、実践につなげている。	理念を各ユニットの事務所に掲示し、日々振り返っている。また、行事前やカンファレンス時、理念について触れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から大変良く協力していただいている。施設代表がずっとこの地域に住んでいて、日ごろから仲良くしているの地域住民との関係は大変良好である。	地域の夏祭りや盆踊り、もちつき、防災訓練などに参加している。また、保育園の運動会の練習や小・中学校の運動会を見に行くなど、地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館や近隣の地域の事業所などで講演会や座談会・勉強会などを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題を職員間で話し合ったり家族に報告したりしてサービスの向上に役立てている。地域の方との関係がより深まっている。	地区会長や高齢者支援センター、近隣の協力者、家族などが参加して、2ヶ月に1回開催している。事業所の行事報告や地域情報等について話し合っている。地域の人と協力して、窓にグリーンカーテンを設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の高齢者支援センターとは日常的に連絡をとっており、また、推進会議にも毎回参加して下さり、良い関係が築けている。	高齢者支援センターへの連絡は、代表者や計画作成担当者が出向いたり、電話、メール、ファックスを利用している。市から様々な情報をもらい、交換しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全くないと言っても過言ではないと思っています。管理者も職員もよく周知しており、拘束のない介護を実践するための介護力の向上に日々努めている。	玄関や窓の鍵は家庭と同じように開放している。年1～2回、ケアマネジャーが中心となり、身体拘束に関する資料や事例をもとに、各ユニット毎で研修を行っている。外部研修にも参加しており、各ユニットで行うカンファレンスの中で報告し、全職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時行っているカンファレンスでよく話し合っており、職員同士よく気を付けている。介護する上で過剰なストレスをためないよう悩みを話し合ったりしてチームワークを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、自社研修をしたりして、制度の理解を深めている。成年後見制度を施設・家族・司法書士などと話し合い活用に至ったケースもある。後見人を必要としている高齢者には支援センターなどと連携を取りながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧に行い、十分理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に目安箱をおいて気軽に意見を伝えてもらうようにしている。また、家族会を毎年開催し、意見・要望を伺うようにしている。家族の訪問がとて多く日常的によく話し合っている。家族が訪問しやすく意見の言いやすい施設でありたいと常にオープンな雰囲気になっている。	年1回開催される家族会にはほとんどの家族が参加しており、その際に意見や要望を聞くように努めている。利用者には日常会話や昔話の中から汲み取る様に心がけている。出た意見や要望は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の代表と常時話し合いを行っており、職員の意見をよく聞いている。もっともっと多くの現場ならではの提案がほしいと思っている。	代表者やケアマネージャーに対して、いつでも気軽に相談できる環境がある。また、普段からコミュニケーションを図っており、職員から出た意見や要望は設備や物品の購入などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるようできるだけ配慮をしている。サービス残業は全くなく、向上心を持って働けるよう資格・役職などには十分な手当を付けている。職員の希望をよく聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはよく参加するようにしている。施設内での研修も随時実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はよくやっている。他の事業所もよく訪れるし、介護・医療・労務管理に関する悩みの相談をよくしており、情報交換も良くできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には環境の変化で混乱されます。安心して生活していただくために職員は創意工夫しながら信頼関係の構築に努めています。ご家族・在宅時のケアマネにも協力いただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族はどうしても本人に対して家で見てあげられないという後ろめたさを感じておられます。これまでのご家族の苦労や悩み・要望をしっかりうかがって安心していただけるよう良い関係を焦らず構築していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族のお話をしっかり聞き、入所時まで担当していたケアマネジャーと連絡を密にとりながら、ご本人・ご家族にとってベストな選択になるよう努めている。入居前のご自宅などへの訪問を実施し、どのような支援を求めているかしっかり見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がご自宅での生活と同じような気持ちで過ごし、持てる能力をしっかりと生かして自立した生活が継続できるよう、職員とともにお互い協力して生活ができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの介護は家族の協力がとても大事です。ご家族も職員とともにご本人を支えていくよう協力いただいています。介護の喜びまた難しさをともに共有してご本人がより良い生活になるよう協力頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご親戚・友人がよく訪れている・またご家族との外出・なじみの美容院への外出・法事などの親戚の集いへの参加等入居前の生活の継続がスムーズにいこうよう支援している。またご自宅ですべて使っておられた調度品などの持ち込み、家族写真などを持ってきていただき今までの生活の継続を図っている。	近所の人や友人の面会が多く、「いつでも面会に来て下さい」と訪問時に伝えている。家族の協力のもと、外出や外食する利用者もいる。また、職員と一緒に自宅周辺をドライブしたり、知り合いの店に遊びに行ったりするなど、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあうような関係になるよう職員は配慮し、心温まる共同生活になるよう入居者一人一人に行き届いた支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った良い関係で、その後のご本人・ご家族の様子に気を配っている。相談にのり必要な援助をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族・在宅時のケアマネなどからこれまでの暮らし方を伺い、本人の立場に立ってどのような暮らし方を望んでおられるか常に検討し模索している。	日常会話の中から事前情報をもとに聞き取ったり、一对一の時にゆっくり話をしながら把握している。困難な場合は、表情や仕草から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・在宅時のケアマネなどから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前及び入居後においても一日の過ごし方、心身の状態、有する能力などについてすべての関係者と協力しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にすべての職員からアセスメントに協力してもらい、本人・職員・ご家族の意向も伺い現状に即したアイデアあふれる介護計画を作成している。	家族や協力医の意見を取り入れながら、ケアプランを作成している。毎月行うカンファレンスは全利用者を対象とし、アセスメントとモニタリングは6ヶ月ごとに全職員で協力しながら行っている。見直しは各ユニットのケアマネジャーが中心となり、6ヶ月ごとに行っているが、状態に応じてその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践などをすべてを記録している。職員は情報の交換・収集・共有に努め、介護の実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが全く違うので、穏やかで安心して生活していただくためにそれぞれ柔軟な対応をしている。例えば病院でのリハビリへの協力、腎臓食の提供等できる限りの援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。また地域からいろいろな援助をさせていただいている。近くのスーパーでの買い物・近所のお宅への訪問、お庭の見物、落ち着いた住宅地での散歩等豊かな暮らしになるよう地域のいろいろな資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所との関係はとても良好で、本人・ご家族への医師の対応も大変良く、適切な医療が行われている。	かかりつけの継続は可能であるが、家族の希望で協力医に変更する家族もいる。月1回の訪問診療と定期受診があり、24時間対応なので何かあればその都度電話で相談している。月1回歯科訪問があり、治療内容によっては受診に行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員とは良いチームワークがとれていて情報交換はうまくできている。医師と看護師は連携がよくとれていて、適切な医療が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は連携医師が入院先の医師と連絡をとりながら適切に対応してくれている。施設も入院先のソーシャルワーカーなどと連携をとりながら早期の退院に向けて絶えず相談している。退院時は入院先の医師・スタッフと施設の管理者・看護師・ケアマネなどと担当者会議を開催し退院後の介護について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の指針を書面で説明している。重度化した時は医師・ご家族・管理者・看護師・ケアマネ・介護職員などその都度説明・相談をしながら対応を検討している。	入居時、代表者が家族に看取りの指針を説明し、同意書を買っている。利用者の状態に応じて、その都度、医師や看護師が家族に方針を説明している。外部研修にも参加し、カンファレンスの中で研修報告を行い、職員に周知している。また、デスクカンファレンスの中で振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での研修・自社での研修などで学習している。また看護師の指導で応急処置や初期対応の訓練をしている。医師・看護師と連絡をとりながら適切に対応している、		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策の中に位置づけられ協力関係ができている。事業所でも年2回防災訓練をおこなっている。	隣接事業所と合同で避難・通報訓練を行うと共に、地域の防災訓練にも参加している。消防署との連絡体制は整備されているが、訓練の参加は少ない。また、家族会の中で地震や水害時の対策について話し合っている。	消防署立ち合いによる避難訓練の実施と地域住民への声かけに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	建物の設計がプライバシーに配慮したものになっている。各居室にトイレ・洗面台を配しゆったりした居住空間になっている。職員の言葉かけ・マナーにも個人の人格を尊重した対応をするよう常に配慮し心がけている。	トイレへの声かけは他の利用者に分からない様に配慮している。また、慣れ合いにならない様、呼称にも配慮しており、日々職員間で注意し合っている。カンファレンスの時、接遇に関する勉強会を行っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を遠慮なく自由に表現できるよう、職員は利用者の声を傾聴しすべてを受容する姿勢で接するようにしている。どの行動に対しても本人の意思を確かめながら行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな生活上の流れはあるものの、介護上の決まりごとは作らず、一人一人の様子を見ながら利用者の思いに添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方は身だしなみを整えるのが難しくなっています。その人らしくあるために洗顔・洗髪・お化粧品・服選び・散髪・パーマ等、身だしなみを整える援助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調・嗜好・食事形態などを考慮しながら職員が交代で献立し、利用者と一緒に買い物・調理・片づけ等を行っています。季節の行事食・お誕生日の祝い膳など楽しい食事になるよう心掛けています。	職員が交代で利用者の意見を取り入れながら、季節に合わせたメニューを作成し、毎食手作りしている。食材の買い出しや調理、片付けなど、利用者と一緒にやっている。誕生日に利用者の好きなものを1品多く作ったり、おやつを手作りしたりするなど、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量などを記録し、栄養バランス・水分量などをチェックしています。医師・看護師・栄養士などと相談しながら一人一人の状態に合わせた食事になるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に合わせた口腔ケアをしています。訪問の歯科医師・歯科衛生士の指導のもと適切な口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあるため遠慮なく使用している。失敗が少しでもないように早めのトイレ誘導を心がけています。入所してから排泄の自立をされた方が多くいます。	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援に取り組んでいる。利用者の動きや表情などのサインを見逃さず、個々の生活リズムに沿った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は腸の機能が弱くなっていたり、水分摂取量が少なかったり便秘の方がとても多いと思います。食べ物・飲み物を工夫したり、腸の機能をよくする運動をするなど個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣を大切に希望に添った入浴を楽しんでいただいています。体を清潔に保ち、快適な生活になるよう支援しています。	週2～3回、日中を通して入浴支援しており、毎日の入浴も可能である。入浴を嫌がる時は、日時や職員を変えながら対応している。季節のゆず湯や入浴剤などを使用し、入浴が楽しくなる様に工夫している。また、体調や状態に合わせて、清拭や足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて横になったり眠っていただいたりしています。室温に配慮したり静かな音楽を流したりして快適に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局の薬剤師が薬の管理をしています。薬の内容は看護師・介護職員ともによく理解しています。間違いなく指示通り服薬できるよう介護職員は細心の注意を払って援助しています。病状に変化があれば速やかに医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・草取り・掃除などこれまでの生活の中でしてきたことの継続を大切にして張り合いのある生活を支援しています。また洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付け・食器洗い等家事を毎日楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日できる限り近所を散歩しています。地域の方と立ち話をする事もたびたびあります。新聞・テレビなどで紹介された場所などへドライブに出かけることも良くあります。また外食に出かけることもあります。	近所を散歩したり、回覧板を届けたりするなど、利用者の希望に合わせて外出している。また、家族協力のもと、観光地へ出かけたり、墓参りや外食に出かけたりする利用者もいる。職員と少人数でのドライブや買い物にも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金は預かっていません。しかし個々人の希望や管理能力によってはお金を所持されている方もおられます。買い物をする喜びもあり買い物の自由も大切です。お金は立て替えさせていただきご家族と相談しながら援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、かけたりはとても楽しいし本人・ご家族も安心されるので全く自由に通話されています。携帯をお持ちのご利用者様も数名おられます。手紙もいただいたり出したり職員の援助で交流されています。年賀状の援助もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には絵画・花・ピアノ・ソファ・テーブルなどを配し入居者の方がホッとするようなご自宅にいるような空間作りを心がけています。広さ・照明・室温などは快適に過ごせるよう配慮しています。また匂いなどにも気を配り気持ちよく過ごしていただいています。当事業所の最も自信をもっているところです。	キッチンカウンターには雛飾りや門松など、季節に応じた展示物を飾っている。ホールの窓からは田んぼや桜、草花が見え、身近に季節が感じられる。天気の良い日はカーテンなどで光の調整を行い、照明や室温にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ソファ・ベンチがあったりウッドデッキがあったりしてホッとするスペースが各所にあります。また憩える庭があり気分転換を図っていただいています。職員もこの快適な空間で介護負担が癒されていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこれまでの生活の継続を考慮し居心地良く過ごせるようにご家族がいろいろ配慮・工夫して下さいます。それぞれ個性があり、どの部屋もステキです。	居室のドアを開けるとクローゼットがあり、居室の中が見えない作りとなっている。各々馴染の物を持ち込み、思い出の品や趣味の物に囲まれながら思い思いに生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの能力を十分発揮できるよう建物内外でいろいろ工夫されています。屋外でもガーデニング・外での食事・バーベキュー・花火・お月見等いろいろな楽しみがあります。内部でもピアノや読書コーナー等楽しく利用して下さいます。自由で自立した生活が送れるようもっともっと創意工夫してまいります。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370203295		
法人名	有限会社 パルティール		
事業所名	グループホーム オリーブガーデン (たんぼぼ)		
所在地	岡山県倉敷市亀山564-3		
自己評価作成日	平成 30 年 3 月 30 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203295-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203295-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 4 月 11 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症高齢者が人格を尊重され、抑制がなく自由で安心して生活できるよう配慮工夫しています。  
 ○居住環境：建物全体が広く明るく開放的で見守りがしやすい自由な雰囲気にあふれている。各個室はゆったりとして広く、個室ごとにトイレ・洗面・クローゼットを備えていて、プライバシーを尊重している。  
 ○職員：常に明るくチームワークが良い。介護力も質が高く、優秀でマナーが良い。  
 ○地域との関係：地域の協力がとてもよく、地域の各行事に参加したりオリーブの行事に来てくださったりとも友好的である。  
 ○食事：献立・調理など全職員が入居者の健康・嗜好・食形態をふまえた上で工夫を凝らし、家庭的で美味しい食事を提供している。  
 ○ご家族：絶えず連絡をとり、良い関係を構築し理解を得ている。  
 ○医療：主治医の協力が大変良く医療が適切に対応が迅速である。ご家族への説明、他の医療機関への紹介など丁寧に対応して下さる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域行事(もちつき、夏祭り、盆踊り、カラオケ大会など)に参加したり、保育園や小・中学校の行事に出向いたり、高校生の職場体験やボランティアを受け入れたりするなど、地域との繋がりが深く、密な関係が築けている。玄関とユニット間のドアは常に開放され、ホールの窓からは自由にテラスや中庭に出ることができ、利用者は拘束の無い自由な生活を送っている。また、面会時間に制限は無く、好きな時間に訪れることができるので、家族・友人との交流が深まっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員ともに理念を理解し、実践につなげている。	理念を各ユニットの事務所に掲示し、日々振り返っている。また、行事前やカンファレンス時、理念について触れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から大変良く協力していただいている。施設代表がずっとこの地域に住んでいて、日ごろから仲良くしているの地域住民との関係は大変良好である。	地域の夏祭りや盆踊り、もちつき、防災訓練などに参加している。また、保育園の運動会の練習や小・中学校の運動会を見に行くなど、地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館や近隣の地域の事業所などで講演会や座談会・勉強会などを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題を職員間で話し合ったり家族に報告したりしてサービスの向上に役立てている。地域の方との関係がより深まっている。	地区会長や高齢者支援センター、近隣の協力者、家族などが参加して、2ヶ月に1回開催している。事業所の行事報告や地域情報等について話し合っている。地域の人と協力して、窓にグリーンカーテンを設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の高齢者支援センターとは日常的に連絡をとっており、また、推進会議にも毎回参加して下さり、良い関係が築けている。	高齢者支援センターへの連絡は、代表者や計画作成担当者が出向いたり、電話、メール、ファックスを利用している。市から様々な情報をもらい、交換しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全くないと言っても過言ではないと思っています。管理者も職員もよく周知しており、拘束のない介護を実践するための介護力の向上に日々努めている。	玄関や窓の鍵は家庭と同じように開放している。年1～2回、ケアマネジャーが中心となり、身体拘束に関する資料や事例をもとに、各ユニット毎で研修を行っている。外部研修にも参加しており、各ユニットで行うカンファレンスの中で報告し、全職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時行っているカンファレンスでよく話し合っており、職員同士よく気を付けている。介護する上で過剰なストレスをためないよう悩みを話し合ったりしてチームワークを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、自社研修をしたりして、制度の理解を深めている。成年後見制度を施設・家族・司法書士などと話し合い活用に至ったケースもある。後見人を必要としている高齢者には支援センターなどと連携を取りながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧に行い、十分理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に目安箱をおいて気軽に意見を伝えてもらうようにしている。また、家族会を毎年開催し、意見・要望を伺うようにしている。家族の訪問がとて多く日常的によく話し合っている。家族が訪問しやすく意見の言いやすい施設でありたいと常にオープンな雰囲気になっている。	年1回開催される家族会にはほとんどの家族が参加しており、その際に意見や要望を聞くように努めている。利用者には日常会話や昔話の中から汲み取る様に心がけている。出た意見や要望は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の代表と常時話し合いを行っており、職員の意見をよく聞いている。もっともっと多くの現場ならではの提案がほしいと思っている。	代表者やケアマネージャーに対して、いつでも気軽に相談できる環境がある。また、普段からコミュニケーションを図っており、職員から出た意見や要望は設備や物品の購入などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるようできるだけ配慮をしている。サービス残業は全くなく、向上心を持って働けるよう資格・役職などには十分な手当を付けている。職員の希望をよく聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはよく参加するようにしている。施設内での研修も随時実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はよくやっている。他の事業所もよく訪れるし、介護・医療・労務管理に関する悩みの相談をよくしており、情報交換も良くできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には環境の変化で混乱されます。安心して生活していただくために職員は創意工夫しながら信頼関係の構築に努めています。ご家族・在宅時のケアマネにも協力いただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族はどうしても本人に対して家で見てあげられないという後ろめたさを感じておられます。これまでのご家族の苦労や悩み・要望をしっかりうかがって安心していただけるよう良い関係を焦らず構築していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族のお話をしっかり聞き、入所時まで担当していたケアマネジャーと連絡を密にとりながら、ご本人・ご家族にとってベストな選択になるよう努めている。入居前のご自宅などへの訪問を実施し、どのような支援を求めているかしっかり見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がご自宅での生活と同じような気持ちで過ごし、持てる能力をしっかりと生かして自立した生活が継続できるよう、職員とともにお互い協力して生活ができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの介護は家族の協力がとても大事です。ご家族も職員とともにご本人を支えていくよう協力いただいています。介護の喜びまた難しさをともに共有してご本人がより良い生活になるよう協力頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご親戚・友人がよく訪れている・またご家族との外出・なじみの美容院への外出・法事などの親戚の集いへの参加等入居前の生活の継続がスムーズにいくよう支援している。またご自宅でご使っておられた調度品などの持ち込み、家族写真などを持ってきていただき今までの生活の継続を図っている。	近所の人や友人の面会が多く、「いつでも面会に来て下さい」と訪問時に伝えている。家族の協力のもと、外出や外食する利用者もいる。また、職員と一緒に自宅周辺をドライブしたり、知り合いの店に遊びに行ったりするなど、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあうような関係になるよう職員は配慮し、心温まる共同生活になるよう入居者一人一人に行き届いた支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った良い関係で、その後のご本人・ご家族の様子に気を配っている。相談にのり必要な援助をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族・在宅時のケアマネなどからこれまでの暮らし方を伺い、本人の立場に立ってどのような暮らし方を望んでおられるか常に検討し模索している。	日常会話の中から事前情報をもとに聞き取ったり、一对一の時にゆっくり話をしながら把握している。困難な場合は、表情や仕草から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・在宅時のケアマネなどから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前及び入居後においても一日の過ごし方、心身の状態、有する能力などについてすべての関係者と協力しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にすべての職員からアセスメントに協力してもらい、本人・職員・ご家族の意向も伺い現状に即したアイデアあふれる介護計画を作成している。	家族や協力医の意見を取り入れながら、ケアプランを作成している。毎月行うカンファレンスは全利用者を対象とし、アセスメントとモニタリングは6ヶ月ごとに全職員で協力しながら行っている。見直しは各ユニットのケアマネジャーが中心となり、6ヶ月ごとに行っているが、状態に応じてその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践などすべてを記録している。職員は情報の交換・収集・共有に努め、介護の実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが全く違うので、穏やかで安心して生活していただくためにそれぞれ柔軟な対応をしている。例えば病院でのリハビリへの協力、腎臓食の提供等できる限りの援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。また地域からいろいろな援助をしていただいている。近くのスーパーでの買い物・近所のお宅への訪問、お庭の見物、落ち着いた住宅地での散歩等豊かな暮らしになるよう地域のいろいろな資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所との関係はとても良好で、本人・ご家族への医師の対応も大変良く、適切な医療が行われている。	かかりつけの継続は可能であるが、家族の希望で協力医に変更する家族もいる。月1回の訪問診療と定期受診があり、24時間対応なので何かあればその都度電話で相談している。月1回歯科訪問があり、治療内容によっては受診に行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員とは良いチームワークがとれていて情報交換はうまくできている。医師と看護師は連携がよくとれていて、適切な医療が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は連携医師が入院先の医師と連絡をとりながら適切に対応してくれている。施設も入院先のソーシャルワーカーなどと連携をとりながら早期の退院に向けて絶えず相談している。退院時は入院先の医師・スタッフと施設の管理者・看護師・ケアマネなどと担当者会議を開催し退院後の介護について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の指針を書面で説明している。重度化した時は医師・ご家族・管理者・看護師・ケアマネ・介護職員などその都度説明・相談をしながら対応を検討している。	入居時、代表者が家族に看取りの指針を説明し、同意書を買っている。利用者の状態に応じて、その都度、医師や看護師が家族に方針を説明している。外部研修にも参加し、カンファレンスの中で研修報告を行い、職員に周知している。また、デスクカンファレンスの中で振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での研修・自社での研修などで学習している。また看護師の指導で応急処置や初期対応の訓練をしている。医師・看護師と連絡をとりながら適切に対応している、		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策の中に位置づけられ協力関係ができている。事業所でも年2回防災訓練をおこなっている。	隣接事業所と合同で避難・通報訓練を行うと共に、地域の防災訓練にも参加している。消防署との連絡体制は整備されているが、訓練の参加は少ない。また、家族会の中で地震や水害時の対策について話し合っている。	消防署立ち合いによる避難訓練の実施と地域住民への声かけに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	建物の設計がプライバシーに配慮したものになっている。各居室にトイレ・洗面台を配しゆったりした居住空間になっている。職員の言葉かけ・マナーにも個人の人格を尊重した対応をするよう常に配慮し心がけている。	トイレへの声かけは他の利用者に分からない様に配慮している。また、慣れ合いにならない様、呼称にも配慮しており、日々職員間で注意し合っている。カンファレンスの時、接遇に関する勉強会を行っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を遠慮なく自由に表現できるよう、職員は利用者の声を傾聴しすべてを受容する姿勢で接するようにしている。どの行動に対しても本人の意思を確かめながら行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな生活上の流れはあるものの、介護上の決まりごとは作らず、一人一人の様子を見ながら利用者の思いに添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方は身だしなみを整えるのが難しくなっています。その人らしくあるために洗顔・洗髪・お化粧品・服選び・散髪・パーマ等、身だしなみを整える援助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調・嗜好・食事形態などを考慮しながら職員が交代で献立し、利用者と一緒に買い物・調理・片づけ等を行っています。季節の行事食・お誕生日の祝い膳など楽しい食事になるよう心掛けています。	職員が交代で利用者の意見を取り入れながら、季節に合わせたメニューを作成し、毎食手作りしている。食材の買い出しや調理、片付けなど、利用者と一緒にやっている。誕生日に利用者の好きなものを1品多く作ったり、おやつを手作りしたりするなど、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量などを記録し、栄養バランス・水分量などをチェックしています。医師・看護師・栄養士などと相談しながら一人一人の状態に合わせた食事になるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に合わせた口腔ケアをしています。訪問の歯科医師・歯科衛生士の指導のもと適切な口腔ケアを実施しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあるため遠慮なく使用している。失敗が少しでもないように早めのトイレ誘導を心がけています。入所してから排泄の自立をされた方が多くいます。	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援に取り組んでいる。利用者の動きや表情などのサインを見逃さず、個々の生活リズムに沿った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は腸の機能が弱くなっていたり、水分摂取量が少なかったり便秘の方がとても多いと思います。食べ物・飲み物を工夫したり、腸の機能をよくする運動をするなど個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣を大切に希望に添った入浴を楽しんでいただいています。体を清潔に保ち、快適な生活になるよう支援しています。	週2～3回、日中を通して入浴支援しており、毎日の入浴も可能である。入浴を嫌がる時は、日時や職員を変えながら対応している。季節のゆず湯や入浴剤などを使用し、入浴が楽しくなる様に工夫している。また、体調や状態に合わせて、清拭や足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて横になったり眠っていただいたりしています。室温に配慮したり静かな音楽を流したりして快適に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局の薬剤師が薬の管理をしています。薬の内容は看護師・介護職員ともによく理解しています。間違いなく指示通り服薬できるよう介護職員は細心の注意を払って援助しています。病状に変化があれば速やかに医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・草取り・掃除などこれまでの生活の中でしてきたことの継続を大切にして張り合いのある生活を支援しています。また洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付け・食器洗い等家事を毎日楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日できる限り近所を散歩しています。地域の方と立ち話をする事もたびたびあります。新聞・テレビなどで紹介された場所などへドライブに出かけることも良くあります。また外食に出かけることもあります。	近所を散歩したり、回覧板を届けたりするなど、利用者の希望に合わせて外出している。また、家族協力のもと、観光地へ出かけたり、墓参りや外食に出かけたりする利用者もいる。職員と少人数でのドライブや買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金は預かっていません。しかし個人の希望や管理能力によってはお金を所持されている方もおられます。買い物をする喜びもあり買い物の自由も大切です。お金は立て替えさせていただき家族と相談しながら援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、かけたりはとても楽しいし本人・ご家族も安心されるので全く自由に通話されています。携帯をお持ちのご利用者様も数名おられます。手紙もいただいたり出したり職員の援助で交流されています。年賀状の援助もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には絵画・花・ピアノ・ソファ・テーブルなどを配し入居者の方がホッとするようなご自宅にいるような空間作りを心がけています。広さ・照明・室温などは快適に過ごせるよう配慮しています。また匂いなどにも気を配り気持ちよく過ごしていただいています。当事業所の最も自信をもっているところです。	キッチンカウンターには雛飾りや門松など、季節に応じた展示物を飾っている。ホールの窓からは田んぼや桜、草花が見え、身近に季節が感じられる。天気の良い日はカーテンなどで光の調整を行い、照明や室温にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ソファ・ベンチがあったりウッドデッキがあったりしてホッとするスペースが各所にあります。また憩える庭があり気分転換を図っていただいています。職員もこの快適な空間で介護負担が癒されていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこれまでの生活の継続を考慮し居心地良く過ごせるようにご家族がいろいろ配慮・工夫して下さいます。それぞれ個性があり、どの部屋もステキです。	居室のドアを開けるとクローゼットがあり、居室の中が見えない作りとなっている。各々馴染の物を持ち込み、思い出の品や趣味の物に囲まれながら思い思いに生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの能力を十分発揮できるよう建物内外でいろいろ工夫されています。屋外でもガーデニング・外での食事・バーベキュー・花火・お月見等いろいろな楽しみがあります。内部でもピアノや読書コーナー等楽しく利用して下さいます。自由で自立した生活が送れるようもっともっと創意工夫してまいります。		